

## プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2010年4月30日】

団体名 NPO法人南山の自然を守り育てる会

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. プロジェクト名

里山資源の活用による里山保全の試み

### 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

当会は長年子ども達とともに里山活動を行ってきたが、近年都市化によってその自然環境が失われつつあります。当会がフィールドにしていた南山地区でも2006年土地区画整理が事業決定され本格的な造成工事が始まった。里山の消失の原因は都市化のほかに里山の活用がなくなったことによるところが大きい。そこで当会では市民の共通資源である里山を活用することで里山を保全することはできないか、その方法を検討することとなった。

### 3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

約30年前までは里山は様々に活用されていた。特に大切なのは雑木の燃料利用だった。その他農業、生活、リクレーション、食糧、など里山資源はなくてはならないものだった。しかし現在それらは他の代替品に替わられて里山は無用化し地権者農家は手入れする後継者がいまま苦慮している。

里山の自然を守り育てるため、市民ができることを補助金を活用して検討した。開発で造成される地区の植物を移植して市民の環境教育活動に宛て、新たに建設される住宅の庭木に活用することを計画した。また里山資源のさまざまな活用を学び、里山の地形を生かしが造成方法も学んだ。地権者と共同で行う里山つき住宅にも取り組んだ。

### 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

学習活動に重点を置いた。特にまた市民に広く呼び掛けてともに検討してもらうことに重きを置いた。

里山つき住宅という考え方は新しい考えだが、その普及にも努めた。

現在の地形をそのまま生かすことができなくても、新住民や旧住民が里山を再生する気持ちを持つことが大切であり、ためにどんな仕組みと、活動が必要かを検討してきた。

### 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

勉強会や講演会を多く行って、会内部の基礎的データ収集に時間を費やした。また会員全体で里山保全方法のあり方を一つにすることが困難だった。現在事業の経過途中にあるため、まだまだ開発後の南山の地形や土地利用は随時変化するとおもわれ、当会の取り組みは時期が早かったということも考えられる。

土地利用や管理組織形態が決定後に里山活用の取り組みが具体化するのかもしれない。しかしその前段階で当会が取り組んだことは今後の礎となると思われる。特に里山コモンズ住宅の実現は「里山コモンズを前進させる会」に発展し当補助金の使途である里山活用の研究も継続することとなり燃料や建材、庭木への応用を検討している。

### 6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

②市民参加移植祭風景



④里山を生かしたまちづくりの勉強会(大石先生講演会風景)

